

【資料】

## 看護系大学における保健師教育に対する学生の認識 — A大学の保健師教育課程選択制に関わる現状と課題—

高橋 郁子 嶋澤 順子 久保 善子 笹井 靖子

東京慈恵会医科大学医学部看護学科地域看護学

(受付 平成25年2月13日)

### I. 緒 言

保健師教育は保健師助産師看護師法の一部改正により平成22年4月より修業年限が6ヵ月から1年以上の教育とされた。さらに、看護系大学は、平成4年には14大学であったが、平成14年には96大学、平成24年4月現在では203大学<sup>1)</sup>と年々増加の一途である。看護系大学の増加に伴い増え続ける看護学生に対し、実習の受け入れ施設の不足が問題となるようになった<sup>2)</sup>。この修業年限の延長や実習施設の不足を背景に、今まで大学で必須となっていた保健師国家試験受験資格と看護師国家試験受験資格が同時に取得できる保健師・看護師統合カリキュラム（以下、統合カリキュラム）について見直しが行われ<sup>3)</sup>、看護系大学は看護師教育課程のみや保健師教育課程の選択制（以下、選択制）も採用できるようになった。

大学における保健師教育は「看護師教育のみ実施」、「統合カリキュラムのまま看護師、保健師教育を実施」、「選択制により一部の学生に保健師教育を実施」することが可能になり、さらには大学院、専攻科、専門学校での保健師教育も実施され、教育機関が多様化<sup>4)</sup>している。保健師教育のあり方やカリキュラム、現場が求める基礎教育について、看護系大学の教員や現場の保健師によって議論がなされている。これらの中では、保健師教育は公衆衛生看護学に特化した教育内容<sup>5)</sup>とすることや、大学院でのカリキュラム案<sup>6)</sup>も提示されている。また、統合カリキュラムで行ってきた教育内容を看護師教育課程における地域看護学と保健師教育課程における公衆衛生看護学に再構成する必要性<sup>5)</sup>や統合カリキュラムにおいて卒業時の到達度が低い項目があり<sup>7)</sup>、保健師教育の臨地実習

は10単位以上で、個人・家族に対する健康生活支援実習、集団・地域に対する地域活動支援実習、地域看護管理の健康政策・管理実習の3種類とし、保健師に必要な実践力が身につく実習をすること<sup>8)</sup>、現場の保健師からは臨地実習における必須体験として地域診断、家庭訪問、健康教育、健康相談、地区組織活動とする<sup>9)</sup>提案がされていた。

しかし、教育を受ける立場である学生から見た大学における保健師教育に関する研究は少なく<sup>10)</sup><sup>11)</sup>、「看護系大学を卒業し保健師として勤務している者」<sup>10)</sup><sup>11)</sup>、「看護系大学在學生とその大学のオープンキャンパスに参加した高校生」<sup>12)</sup>を対象とした研究がある。在学中の学生を対象とした研究は保健師教育に対する期待と学習負担を調査した研究があった<sup>13)</sup>。この研究では、保健師教育を大学院または選択制にすることに6割が賛成しており、「看護師の勉強だけで精一杯」であることがその理由であった。統合カリキュラムでは地域看護の視点を持つ看護師の養成として評価できるが、保健師の質の担保、過密なカリキュラムから学生の意欲低下と学習負担を増すことから限界があり、大学院教育への期待が述べられている<sup>13)</sup>。

A大学でも平成24年度入学生よりカリキュラムが改正され保健師教育課程は選択制となり、看護師教育課程で行う科目を地域看護学、保健師教育課程は「保健師の教育課程」とし選択者にのみ行う科目は公衆衛生看護学となった。看護師教育課程の必修となる地域看護学は講義4科目8単位と実習1科目1単位、保健師教育課程選択者のみに教授する公衆衛生看護学は講義2科目4単位と実習1科目4単位となっている（Table 1）。このような現状を踏まえ、学生が保健師教育に対しどのような考えを持っているのか把握することは重要であ

り、今後の教育計画に活かせるものになると考えた。

本研究は、保健師教育に対する学生の認識を把握し、A大学における保健師教育課程の選択制にかかわる現状と課題を明らかにすることを目的とした。

## II. 対象と方法

### 1. 対象

A大学の看護学科に平成24年度に在籍する全学生165名とした。

### 2. 調査方法

研究デザインは無記名自記式質問紙による横断調査である。

先行研究を参考に「看護系大学における保健師教育に対する学生の認識」調査票案を作成し、地域看護学教員で検討を行い完成させた。保健師教育に対する認識として、保健師資格に対する認識と保健師教育課程に関する認識を調査した。調査内容は、保健師資格に関する認識として、大学入学前の志望校を決める時に保健師国家試験受験資格の有無を考慮したかを問う「進路選択時保健師国家試験受験資格の考慮」、入学時に保健師国家試験受験資格が取得できることを知っていたかを

問う「入学時保健師国家試験受験資格の認識」、「入学時の就職希望職種」、「現在の就職希望職種」、「保健師資格の取得希望」、保健師資格を取得する、しないにかかわらず保健師教育課程の選択希望を尋ねる「保健師教育課程の選択」の6項目である。保健師教育課程に関する認識として、保健師教育の実施機関としてどこが望ましいかを問う「保健師教育実施機関」、大学で保健師教育を実施しない大学や統合カリキュラム、選択制と多様化していることに対してどのように認識しているかを尋ねる「保健師教育に関する大学の多様化への認識」、看護師教育における地域看護学教育の必要性を尋ねる「看護師への地域看護学教育の必要性」の3項目とした。

1～3年生は地域看護学の講義時、4年生は地域看護学実習の学内実習時に調査の説明と調査票配布を行い、協力が可能な場合は調査票への回答を依頼した。調査への同意は調査票の提出をもって同意が得られたものとした。

### 3. 調査期間

調査期間は平成24年6月15日～10月22日であった。

1年生は地域看護学科目の初回講義の前であるが、保健師教育課程が選択制となることについて説明を受けている。2年生は地域看護学科目の講

Table 1 地域看護学分野におけるカリキュラム比較

	平成21～23年度カリキュラム (統合カリキュラム)	平成24年度改正カリキュラム (保健師の教育課程選択制)
1年次	地域看護学概論 (1単位15時間) 地域看護学実習Ⅰ (1単位45時間)	地域看護学概論 (2単位30時間)
2年次	地域看護学対象論 (2単位30時間) 地域看護技術論 (2単位30時間)	地域看護学対象論 (2単位30時間) 地域看護活動論Ⅰ (2単位30時間) 地域看護学実習 (1単位45時間)
3年次	地域看護活動論Ⅰ (2単位60時間) 地域看護活動論Ⅱ (2単位30時間) 地域看護管理論 (1単位15時間) 地域看護学実習Ⅱ (1単位45時間)	地域看護活動論Ⅱ (2単位30時間) 公衆衛生看護活動論 (2単位30時間) * 公衆衛生看護管理論 (2単位30時間) *
4年次	地域看護学実習Ⅲ (1単位90時間)	公衆衛生看護学実習 (4単位180時間) *

\* 保健師の教育課程選択者のみ必修、それ以外は全員必修

義が進行中で2科目終了後、3年生はすべての地域看護学科目の講義終了後、4年生は地域看護学のすべての講義、実習終了後に実施した。

#### 4. 分析方法

調査項目ごとに記述統計を行い、学年による違いを見るため、学年と各調査項目の比較は $\chi^2$ 検定を行った。

A大学の保健師教育課程選択制導入による課題を明らかにするため、ロジスティック回帰分析を実施した。選択制の1年生と統合カリキュラムの2～4年生のカリキュラムの違いで2群に分け、これを従属変数にし、保健師教育課程選択制となった学生と統合カリキュラムの学生を比較し、保健師教育に対する認識の変化をみた。9つの調査項目を説明変数として投入し、説明変数は進路選択時保健師国家試験受験資格の考慮（考慮した／考慮しない）、入学時保健師国家試験受験資格の認識（知っていた／知らなかった）、入学時の就職希望職種（保健師／それ以外）、現在の就職希望職種（保健師／それ以外）、保健師資格の取得希望（要る／要らない）「必要」「資格は取りたい」「資格は取っておきたい」を「要る」、「要らない」「その他」を「要らない」とした、保健師の教育課程の選択（選択したい／それ以外）、保健師教育実施機関（大学統合カリキュラム／それ以外）、保健師教育に関する大学の多様化への認識（不公平と思う／それ以外）、看護師への地域看護学教育の必要性（思う／思わない）である。

統計的解析にはSPSS15.0J for windowsを用いた。

#### 5. 用語の説明

##### 1) 保健師教育

保健師に関わる教育全般を示し、保健師免許の取得に必要な基礎教育から免許取得後の現任教育も含む。本研究では保健師免許の取得に必要な教育に関わる内容を広く捉え、保健師教育課程やカリキュラム、保健師教育機関、地域看護学と公衆衛生看護学などを含めて示す。

##### 2) 保健師教育課程と保健師の教育課程

保健師教育課程は、保健師助産師看護師養成学校指定規則（以下、指定規則）で定められている保健師養成に必要な教育内容であり、A大学では保健師教育課程を「保健師の教育課程」として

る。本論文ではA大学のカリキュラムを説明する上でも、基本的には「保健師教育課程」と表現する。

##### 3) 地域看護学と公衆衛生看護学

指定規則の中で保健師教育に関わる科目は公衆衛生看護学であったが、平成8年～22年は地域看護学となっていた。地域看護学と公衆衛生看護学の定義について、平成22年の指定規則改正に伴い、さまざまな議論がされている。本論文では、地域看護学は個人・家族を対象に地域という場所で行われる在宅看護や継続看護も含む看護活動について、公衆衛生看護学は、学校などの特定集団や地域住民全体を含む、個人・家族、集団、地域のすべての人々を対象に、疾病・障害の予防、健康の維持増進を目的として保健師が行う看護活動について教授する学問とする。

#### 6. 倫理的配慮

同意説明書を用いながら口頭で、調査の主旨や目的について説明した上で、本調査への参加について判断してもらい、自由な意思により調査協力が得られるよう、調査実施時には調査への協力が任意であること、成績とは関係がないことを口頭と同意説明文で説明した。調査票は無記名で教員が回答者を把握できないようにした。

本研究に係る研究対象者の個人情報には、「学校法人慈恵大学 個人情報保護に関する規程」、「個人情報の取得・利用ならびに第三者提供に関する細則」および「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して取り扱い、研究成果を論文や学会報告する場合は、集計したデータを用いて公表し、個人が特定される情報を公表することはないことを説明した。

なお、本研究は東京慈恵会医科大学の倫理委員会に申請し、倫理委員会への審議は必要ないとの判断を得た（付議不要：受付番号24-033 6799）。

### III. 結 果

対象165名中142名から回答が得られ、回収率は86.1%であった。そのうちすべての質問に回答のあった127名（77.0%）を分析の対象とした。分析対象の学年ごとの内訳は、1年生39名（92.9%）、2年生24名（58.5%）、3年生33名（78.6%）、4年

生31名(77.5%)であった。

### 1. 保健師資格に関する学生の認識 (Table 2)

志望大学を選択する上で保健師国家試験受験資格が取得できることを検討したと回答した学生は全学年では56.7%であり、学年別にみると2年生、3年生は約7割であったが、1年生、4年生は5割以下であった。入学時に保健師国家試験受験資格を取得できることを知っていた学生がもっとも少なかったのは1年生の82.1%であった。

卒業時の就職希望職種は全学年を通して看護師がもっとも多く、入学時70.9%、現在67.7%であった。保健師を希望する学生は全体では入学時、現在とも3.9%で変化はなかったが、学年別では「入学時」最小3.0%、最大5.1%が、「現在」では最小0%、最大12.1%と入学時に比べ割合に幅があり、現在、保健師就職を希望している者は3年生がもっとも多かった。

保健師の資格取得について、全学年では「保健師になりたいので必要」6.3%、「将来保健師になるかもしれないので資格は取りたい」46.5%、「とりあえず資格は取っておきたい」43.3%で、保健

師資格を取得したいと思っている学生は96.1%であった。「保健師資格は要らない」を選択した学生は2～4年生にはおらず、1年生(10.3%)のみ選択をしていた。

保健師教育課程を選択したいと答えた学生は全体では63.0%と保健師資格を取得したいと思っている学生よりも3割少なく、保健師教育課程を「選択したい」がもっとも多かったのは3年生81.8%であり、もっとも低かったのは4年生の41.9%であった。

### 2. 保健師教育課程に関する学生の認識 (Table 3)

保健師教育機関は大学で統合カリキュラムまたは選択制が望ましいとした学生が1, 2, 4年生は約95%であったが、3年生は87.9%であった。大学において保健師教育が多様化することについて、全体では問題ない42.5%、多様な方法があって良い34.6%と前向きな回答が多く、大学によって保健師国家試験受験資格が取得できる大学、できない大学があることに不公平と思うは19.7%であった。しかし、2～4年生は不公平と思うは0～12.5%にもかわらず、1年生では46.2%と半

Table 2 保健師資格に関する学生の認識 n (%)

		1年生	2年生	3年生	4年生	合計	p値
進路選択時保健師国家試験受験資格の考慮	考慮した	19 (48.7)	17 (70.8)	22 (66.7)	14 (45.2)	72 (56.7)	0.113
	考慮しない	20 (51.3)	7 (29.2)	11 (33.3)	17 (54.8)	55 (43.3)	
入学時保健師国家試験受験資格の認識	知っていた	32 (82.1)	24 (100)	30 (90.9)	28 (90.3)	114 (89.8)	0.150
	知らなかった	7 (17.9)	0 (0)	3 (9.1)	3 (9.7)	13 (10.2)	
入学時の就職希望職種	保健師	2 (5.1)	1 (4.2)	1 (3.0)	1 (3.2)	5 (3.9)	0.929
	看護師	25 (64.1)	16 (66.7)	25 (75.8)	24 (77.4)	90 (70.9)	
	助産師	2 (5.1)	0 (0)	1 (3.0)	0 (0)	3 (2.4)	
	養護教諭	2 (5.1)	1 (4.2)	1 (3.0)	0 (0)	4 (3.1)	
	未定	8 (20.5)	6 (25.0)	5 (15.2)	6 (19.4)	25 (19.7)	
現在の就職希望職種	保健師	1 (2.6)	0 (0)	4 (12.1)	0 (0)	5 (3.9)	0.038
	看護師	23 (59.0)	17 (70.8)	19 (57.6)	27 (87.1)	86 (67.7)	
	助産師	2 (5.1)	0 (0)	2 (6.1)	3 (9.7)	7 (5.5)	
	養護教諭	1 (2.6)	1 (4.2)	0 (0)	0 (0)	2 (1.6)	
	未定	12 (30.8)	6 (25.0)	8 (24.2)	1 (3.2)	27 (21.3)	
保健師資格の取得希望	保健師になりたいので必要	2 (5.1)	1 (4.2)	4 (12.1)	1 (3.2)	8 (6.3)	0.104
	保健師になるかもしれないので資格は取りたい	18 (46.2)	9 (37.5)	13 (39.4)	19 (61.3)	59 (46.5)	
	とりあえず資格は取っておきたい	14 (35.9)	14 (58.3)	16 (48.5)	11 (35.5)	55 (43.3)	
	保健師資格は要らない	4 (10.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3.1)	
	その他	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.8)	
保健師教育課程の選択	選択したい	25 (64.1)	15 (62.5)	27 (81.8)	13 (41.9)	80 (63.0)	0.012
	選択しない	6 (15.4)	0 (0)	1 (3.0)	4 (12.9)	11 (8.7)	
	わからない	8 (20.5)	9 (37.5)	5 (15.2)	12 (38.7)	34 (26.8)	
	その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (6.5)	2 (1.6)	

$\chi^2$ 検定



数程度の学生が不公平と感じていた。

看護師への地域看護学の教育の必要性について全学生では「とてもそう思う」28.3%、「そう思う」63.8%、「あまりそう思わない」7.9%で、「そう思わない」はいなかった。学年別にみると、「とてもそう思う」は1年生(48.7%)、「そう思う」は4年生(83.9%)の回答がもっとも多かった。

### 3. カリキュラム改正後の認識の変化(Table 2～4)

$\chi^2$ 検定により学年で有意差が得られた項目は現在の就職希望職種 ( $p=0.038$ ) 保健師教育課程の選択 ( $p=0.012$ )、保健師教育に関する大学の多様化への認識 ( $p=0.000$ )、看護師への地域看護学教育の必要性 ( $p=0.004$ ) であった。

選択制の1年生と統合カリキュラムの2～4年生に分けてカリキュラムの違いを従属変数にロジスティック回帰分析を実施した結果、保健師教育に関する大学の多様化への認識(オッズ比9.92)のみカリキュラムによる差がみられた。

## IV. 考 察

### 1. 保健師国家試験受験資格と大学選択

志望大学を選択する上で保健師国家試験受験資格が取得できることを検討した学生は約6割で

あった。A大学の1年生は選択制となり受験への影響が懸念されたが、大学等の進路を決める時に保健師国家試験受験資格取得の有無を考慮した学生は48.7%で、半分の学生は志望校を選ぶ上で保健師国家試験受験資格を考慮していない結果となった。入学時に保健師国家試験受験資格が取得できることを知らない学生も17.9%おり、保健師教育課程が選択制になる前・後で学年間に差はみられなかった。保健師教育課程を選択制にすると受験生が減少するのではないかという経営上の観点から懸念されているが<sup>14)</sup>、A大学では保健師国家試験受験資格の有無は志望大学の選択には影響がみられなかった。しかし、看護系大学では保健師と看護師の2つの国家試験受験資格が得られることは受験生にとっては魅力あるものであり<sup>15)</sup>、大学により保健師教育課程が統合カリキュラムか選択制であるかの違いは、高校生の進路選択にも影響してくる<sup>12)</sup>とも述べてられている。A大学の地域ではほとんどの大学が保健師教育課程は選択制となっているため、志望大学の選択に影響がみられなかったが、もし同じ地域の中で統合カリキュラムと選択制の大学が一定数設置されている場合には、志望大学の選択に影響し、選択制よりも統合カリキュラムが選ばれる可能性がある。

Table 3 保健師教育課程に関する学生の認識 n(%)

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	p 値	
保健師教育実施機関	大学で全員統合カリキュラム	20 (51.3)	10 (41.7)	17 (51.5)	11 (35.5)	58 (45.7)	0.479
	大学で選択制	17 (43.6)	13 (54.2)	12 (36.4)	18 (58.1)	60 (47.2)	
	大学院	2 (5.1)	1 (4.2)	1 (3.0)	0 (0)	4 (3.1)	
	専攻科	0 (0)	0 (0)	2 (6.1)	2 (6.5)	4 (3.1)	
保健師教育に関する大学の多様化への認識	特に関心はない	11 (28.2)	14 (58.3)	10 (30.3)	19 (61.3)	54 (42.5)	0.000
	多様な方法があって良い	8 (20.5)	7 (29.2)	19 (57.6)	10 (32.3)	44 (34.6)	
	不公平と思う	18 (46.2)	3 (12.5)	4 (12.1)	0 (0)	25 (19.7)	
	その他	2 (5.1)	0 (0)	0 (0)	2 (6.5)	4 (3.1)	
看護師への地域看護学教育の必要性	とてもそう思う	19 (48.7)	6 (25.0)	8 (24.2)	3 (9.7)	36 (28.3)	0.004
	そう思う	20 (51.3)	15 (62.5)	20 (60.6)	26 (83.9)	81 (63.8)	
	あまりそう思わない	0 (0)	3 (12.5)	5 (15.2)	2 (6.5)	10 (7.9)	

$\chi^2$ 検定

## 2. 就職希望職種と保健師教育課程の選択

就職希望職種は入学時、現在とも看護師が約7割を占め、ついでまだ職種を決めかねている学生が多く、保健師、助産師、養護教諭がそれぞれ1割以下であった。保健師を希望する学生は3.9%であったが、看護系大学では保健師志望が約1～2割おり<sup>2)13)16)</sup>、実際に就職するのは約1割と言われており<sup>2)15)17)</sup>、他大学と比較し低い数値であった。

看護師はこれまでの経験の中で職業イメージを持ちやすい職種であるが、保健師の認知は低く、入学時には保健師という職種を知らない学生もいる。このような学生も、大学で学習する中で保健師に興味を持ち、保健師として就職を希望する場面がある<sup>10)11)</sup>。しかし、保健師は求人が少なく、公務員試験対策など早い段階から準備をする必要がある。実習を体験して、保健師を志望する学生もいるが、実習により保健師になりたいと思ってもその年の就職は難しい。今後、選択制となることで、保健師への関心が高まり、早い段階から就職の準備に取り組む雰囲気ができ、保健師として就職する学生が増える可能性がある。

学生は「将来保健師になるかもしれないので資格は取りたい」、「とりあえず資格は取っておきたい」を合わせると96.1%とほとんどの学生が保健師の資格を取得したいと答えていた。しかし、実際に保健師教育課程を選択したいと答えた学生は63.0%で資格を取得したいとの回答とずれがあっ

た。保健師教育課程を選択するか「わからない」が26.8%おり、これは資格取得できるなら取得したいが、学業の負担<sup>12)</sup>や経済的負担がある一方で、将来保健師免許が必要になるかわからないため迷っているのではないかと考えられる。

保健師教育課程を選択したいと回答した学生がもっとも少なかったのは4年生の41.9%であった。4年生で低い結果となったのは、講義、実習をほぼ終了した段階で、自分の志望する分野が明確になり、卒業後の進路も決まっていることから、自分自身の将来を見据え、キャリアの方向性を持っているからではないかと推測する。

A大学では講義3科目6単位と実習1科目1単位を修了した2年生後期に保健師教育課程の選択者を決定する。学生が自分の将来を考え、検討するためにも、地域看護学の概論と各論のおおむねの内容を含む科目を必修とし、保健師とは何をする職種なのか理解し、保健師教育課程の選択について判断できるようにしたカリキュラム設定は適切であったと考えられる。

保健師教育課程は人数制限があるため、学生が卒業時の進路として保健師を志望しても保健師国家試験受験資格を得られない場合が考えられる。実際に1年生は保健師教育課程を64.1%が選択すると回答したが、A大学では実習での受け入れが定員の32%となっており、定員より希望が多くなる可能性があり、その場合選抜をせざるを得ない。保健師になりたい学生は日頃から勉強し、希

Table 4 カリキュラム改正後の認識の変化

項目	カテゴリー	オッズ比 (95%信頼区間)
進路選択時保健師国家試験受験資格の考慮	考慮した/考慮しない	
入学時保健師国家試験受験資格の認識	知っていた/知らなかった	
入学時の就職希望職種	保健師/それ以外	
現在の就職希望職種	保健師/それ以外	
保健師資格の取得希望	要る/要らない	
保健師教育課程の選択	選択したい/それ以外	
保健師教育実施機関	大学統合カリキュラム/それ以外	
保健師教育に関する大学の多様化への認識	不公平と思う/それ以外	9.92 (3.66-28.86)
看護師への地域看護学教育の必要性	思う/思わない	

ロジスティック回帰分析 変数増加法 (Wald)

望が通るように努力する必要がある。しかし、もし希望したが叶えられなかった時には、学生への支援や、強く志望する場合には卒業後の進路の情報提供などの支援が求められる。

### 3. 看護師教育における地域看護学

地域看護学は看護学の一分野を占めており、看護師になるためにも必要な科目であると考え<sup>18)</sup>。岡本も<sup>5)</sup> 大学における統合カリキュラムが前提ではなくなった今、看護師教育課程に、地域看護学の基盤を教授する科目を入れる必要があると述べている。A大学では今まで行ってきた保健師教育課程の科目を選択制後は看護師教育の中で行う科目を地域看護学、保健師教育課程選択者のみ行う科目を公衆衛生看護学とした。看護師教育課程の必修となる地域看護学は講義4科目8単位と実習1科目1単位であり、保健師教育課程選択者のみに教授する公衆衛生看護学は講義2科目4単位と実習1科目4単位となっている。選択制となる前に行ってきた保健師教育課程の科目の多くを看護師教育でも教授し、公衆衛生看護学の内容も含んだカリキュラムとなっている。

看護師教育における地域看護学の位置づけは曖昧で、今までは、統合カリキュラムにより、保健師国家試験を受験するため一定の内容と水準が保たれていたが<sup>20)</sup>、今後は看護師教育として地域看護学をどこまで教授するかは大学により異なってくる。齋藤は<sup>21)</sup> 統合カリキュラムの利点として、健康の保持増進・疾病の予防、健康学習支援や健康管理支援、在宅療養支援や地域ケア体制づくり、保健・医療・福祉チームの中での調整や社会資源の活用支援等の能力が看護師教育にとりこまれ看護師教育の幅や奥行きが広がったと述べている。A大学では統合カリキュラムの良さも活かし、看護師教育における地域看護学の学びを大事にしたカリキュラムとした。入院期間の短縮や在宅療養が進む中、地域看護学の学びは看護師にも求められている。また、看護師が保健師の役割や活動を理解することは、連携や協働をしていく上でも重要である<sup>18)</sup>。このような利点が活かせるような教育を今後も継続していく必要がある。

学生も看護師への地域看護学の教育の必要性について「とてもそう思う」28.3%、「そう思う」63.8%と回答しており、9割以上が看護師にも地

域看護学の教育は必要と考えていた。この項目はまだ地域看護学の講義を受けていない1年生で「とてもそう思う」と回答した割合が多かった。学生の多くが地域看護学は看護師にも必要な科目と感じているが、学習場面の態度としてはモチベーションの低さを感じることもある。統合カリキュラムでは、卒業後に必ずしも保健師になることを目指していない者が多いため、臨地実習で学ぶ「動機」「姿勢」「志向性」に問題がでてきていると指摘されている<sup>21)</sup>。これは臨地実習に限らず講義でも言えることである。地域看護学を学ぶ必要性を理解し、それが学習態度や姿勢につながるように、地域看護学を学ぶことの必要性を学生に常に再認識させながら、学習を進めていく必要がある。

### 4. 学生が望む保健師教育の実施機関と保健師教育課程選択制の課題

学生は保健師教育の実施機関として、大学で統合カリキュラム(45.7%)または選択制(47.2%)が望ましいと回答し、大学院、専攻科、専門学校を選んだ学生は少なかった。神原の研究<sup>22)</sup>ではそれぞれの課程に対し肯定するか回答を求めているので一概に比較できないが、統合カリキュラムが6割近く、選択制が3割、専攻科1割強、大学院は少数であり、保健師を希望する者だけみると選択制や専攻科を肯定するものが多いとあり、本研究でも同じような傾向がみられた。また、学生は大学における保健師教育が多様化していることに対して、問題ないや多様な方法があつてよいと前向きな回答が多かった。大学の中で「保健師国家試験受験資格を全員が取得できる」、「選択制により一部の学生のみ取得できる」、「全員取得できない」という状況であることに対し不公平と思っている学生は約2割であった。大学により資格取得が違ふことに対して、ほとんどの学生が進路選択時に情報収集し、選択すれば問題ないとの意見であった。しかし、実際に選択制となる1年生で不公平と感じている学生が多く、他の学年との差がみられた。2～4年生は全員保健師国家試験受験資格が取得できるが、1年生は選択制となり、統合カリキュラムと比較し、不公平感を抱いていた。選択制が一般的になるまでは、学生に制度改正の背景や専門職に求められていることなど

を丁寧に説明する必要がある。

また、卒業時には看護師として就職し、その後保健師になる場合もあるが、看護系大学を卒業し、保健師資格を持たない看護師が、将来保健師になりたいと思った際の選択肢は少ない。現在は保健師教育機関として専門学校、専攻科は減少傾向であり、全国保健師教育機関協議会では保健師教育を大学院で行えるよう活動をしている（一般社団法人全国保健師教育機関協議会 アクションプラン2012）が、大学院はまだ少ない。また、大学院は経済的負担の増加も課題としてあげられている<sup>13)</sup>。そのため、学生にはこのような現状についても説明し、保健師になる可能性があるのであれば大学で教育を受けておくべきであることを伝えていく必要がある。

## V. 結 語

A 大学は保健師志望の学生も少なく、その影響も考えられるが、保健師国家試験受験資格の有無は志望大学の選択には影響しないことが示唆された。また、学生は保健師教育の実施機関としては大学が望ましいと考えていた。

大学における地域看護学教育としては、保健師のみならず、看護師にも必要な科目として捉えられるよう教授し、さらに、その後の保健師教育課程選択に向け、保健師の基本的な役割・機能を十分理解し、適切な選択ができるような配慮が必要である。

選択制となった1年生には保健師教育の制度改正の背景や現状について説明し、今後、保健師教育課程を希望する学生が選抜されなかった場合には、学生への支援が求められる。

本研究の主旨を理解し、快く調査に協力していただいた学生の皆様に心より感謝申し上げます。

**著者の利益相反 (conflict of interest : COI) 開示 :**  
本論文の研究内容に関連して特に申告なし

## 文 献

- 1) 石橋 みゆき, 辻 邦章, 西尾 和幸. 平成23年度保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴う看護系大学における新カリキュラムの概要 教育課程の変更承認申請の内容から. 看教. 2012; 53: 398-403.
- 2) 福本 恵. 保健師教育の変遷と今日的課題. 京府医大誌. 2008; 117: 947-55.
- 3) 和住 淑子. 平成20年の保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正とそれを取り巻く状況. 看教. 2010; 51: 592-7.
- 4) 小山田 恭子. 保健師助産師看護師法等の一部改正と大学における看護系人材養成の今後の課題. 看教. 2010; 51: 716-20.
- 5) 岡本 玲子. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望 (2) 看護師教育課程に必要な地域看護学, 保健師教育課程に必要な公衆衛生看護学 前者の教育内容と, 看護師の指定規則への提案. 日公衛誌. 2009; 56: 750-7.
- 6) 佐伯 和子. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望 (4) 実践能力の構造に基づく保健師教育のカリキュラム 高度専門職業人の養成. 日公衛誌. 2009; 56: 897-901.
- 7) 安齋 由貴子. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望 (3) 大学における保健師教育課程の問題点 卒業時の到達度の観点から. 日公衛誌. 2009; 56: 821-4.
- 8) 奥山 則子. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望 (6) 保健師教育のミニマムリクワイアメント (必要最小限の教育内容) とは. 日公衛誌. 2010; 57: 135-43.
- 9) 松本 珠実, 森岡 幸子. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望 (7) 実習現場から期待する保健師教育の実習. 日公衛誌. 2010; 57: 214-7.
- 10) 山口 佳子. 大学における保健師教育制度のあり方に関する意見と卒業時の保健師実践能力到達度. 杏林大研報 教養部門. 2010; 27: 25-34.
- 11) 山口 佳子. 大学における保健師基礎教育制度のあり方に関する卒業生の意見. 保健師ジャーナル. 2010; 66: 244-51.
- 12) 白木 裕子, 佐藤 都也子, 片田 裕子, 松澤 明美, 柳澤 尚代, 山本 真千子, ほか. 保健師教育に関する看護系大学生および高校生の意向. 茨城キリスト教大看紀. 2010; 2: 45-8.
- 13) 佐藤 公子. 保健師教育の課題と方向性-看護系大学統合カリキュラムに対する学生の意識調査-. 日看会論集: 地域看. 2012; 42: 213-6.
- 14) 岸 恵美子, 吉岡 幸子, 野尻 由香, 望月 由紀子. 大学教育の現状と今後の行方. 地域保健. 2010; 41: 22-7.
- 15) 宇座 美代子, 佐伯 和子. 保健師の教育. 保健の科学.



- 2007; 49: 243-6.
- 16) 村嶋 幸代. これからの保健師教育の可能性を探る  
上乗せ教育の必要性和方向性. 保健師ジャーナル.  
2008; 64: 1148-53.
- 17) 綾部 明江, 富岡 実穂, 木下 由美子. 保健師志望学生が  
望む保健師教育のあり方-A大学4年生の意見と通し  
て-. 茨城医療大紀. 2012; 17: 51-8.
- 18) 佐伯 和子. 看護学生が学ぶ地域看護学とは. 看教.  
2012; 53: 363-9.
- 19) 山本 真由子. 「看護師が行う地域看護活動」の視点か  
ら見た必要な教育内容. 看教. 2012; 53: 370-5.
- 20) 島内 節. 大学, 大学院教育における地域看護学教育の  
あり方. 保健の科学. 2003; 45: 321-6.
- 21) 齋藤 泰子, 菅野 友紀. 大学学士課程教育における保  
健師教育の現状と課題. 武蔵野大看紀. 2007; 1: 89-97.
- 22) 神原 恵, 井上 清美, 山岡 紀子, 川崎 絵里香. 看護系大  
学における保健師国家試験受験資格に関するニーズ  
調査. 神戸常盤大紀. 2012; 5: 50.